



EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー 2021ジャパン (株)会津工場 鈴木直記社長 「エクセプションナル・グロース賞」受賞



(株)会津工場 代表取締役社長 鈴木直記さん

只見高校を卒業後、1979年に(株)会津工場に就職。取締役営業部長や取締役工場長を歴任し、平成22年から代表取締役社長に就任。

EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤーとは

事業家の努力と功績をたたえ、より良い社会の構築と後進の事業家の育成に寄与することを目的に開催されています。地区大会、全国大会、世界大会が行われています。

(株)会津工場の鈴木直記さんが、10月6日に開催されたEYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー東北地区大会でグランプリ、また12月6日に開催された全国大会でエクセプションナル・グロース賞に選ばれました。

今回は、鈴木さんにアントレプレナー・オブ・ザ・イヤーに選ばれた際の心境などについてインタビューしました。

— アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーの東北グランプリに選ばれた際の心境を教えてください —

「東北代表になるとは思ってもみなかったです」

最初はどのような企業、人が集まってくるのかに興味がありました。アントレプレナー・オブ・ザ・イヤーが大きなイベントということは知っていましたが、声をかけてもらったときは東北代表になるとは全然考えてもいなかったですね。東北地区グランプリに私の名前が呼ばれたときは大変驚きました。「え、本当に？」という感じでした。他の2者の取り組みはユニーク、かつグローバルに展開をされていて、私がグランプリに選ばれるとは全く思っていませんでした。審査員の講評の中では、この地に根を張って事業展開をしているという地域への貢献度の部分を高く評価していただけたようです。

— 全国大会はどうでしたか —

「日本を代表する企業家と同じ土俵に上がられて光栄でした」

他の企業家のユニークな取り組みや仕事に対する姿勢、仕事への視点に感心しました。皆さん個性的でそれで結果も出ていて「私は、なんでこんなところにいるのだろう？」と思いました。良い意味でとがっている企業さんのお話は大変勉強になりましたし、日本を代表するような企業家と同じ土俵に上がったのは非常に光栄でした。

— 会津工場はどんな企業ですか —

「『勝手に試作』を武器に、攻めの姿勢を大事にやってきました」

「勝手に試作」ということをやってきました。鋳物は中国などの海外でも生産していますので、価格競争の市場となりがちです。そこで戦うのが嫌でした。無理して注文を取っても採算が合わないとかですね。だから、どこにも負けない真似できない高品質の鋳物を作ってメーカーに直接営業に行きました。「会津工場がこの部品を作れば、どこにも負けない精度のものが作れますよ」とメーカーが絶対喜ぶような試作品を勝手に試作して提案しに行くんです。

また会津工場は世界に唯一の工法（Hプロセス工法）を持っています。どこにも真似できない肉薄軽量で高品質な鋳物が作れます。工数も減らせて、材料費も安く済ませることができます。

「勝手に試作」と「Hプロセス工法」を武器にした攻めの姿勢を大事にしてきました。

— 鈴木社長（会津工場）の今後の目標を教えてください —

「会津から世界を目指す」企業へ

「会津から世界を目指す」をスローガンにしていますので、ここ（会津工場、南郷工場）を核にして、世界に展開（生産拠点を海外にも展開）していきたいと考えています。会津工場唯一のHプロセス工法ですが、やがてこの工法がグローバルスタンダードになれるような日を夢見てやっています。どこまで行けるか分からないですけどね。世界を目指す。夢は大きく持っています。